

普及活動情勢報告（令和3年11月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

新技術・新害虫の情報を共有 ～安芸支部園芸部園芸研究会ナス部会～



10月27日、安芸支部園芸部園芸研究会が安芸集出荷場でナスの栽培講習会を開催し、生産者40人が参加しました。農業改良普及課は省力化を目的とした「下位側枝摘除技術」の紹介や、病虫害対策についての指導を行いました。

その後ハウスで実施した現地検討では、参加者同士で下位側枝摘除技術について教え合ったり、本年発生が多いフタテンミドリヒメヨコバイの被害葉を確認したりしました。

農業改良普及課は、今後も新しい栽培技術や病虫害対策の情報の提供を行い、栽培技術の向上を支援します。

土耕・養液栽培ごとの現地検討会を開催しました ～中芸集出荷場ナス部会～



11月1日、2日に、土耕栽培と養液栽培に分けて中芸集出荷場ナス部会が現地検討会を開催し、生産者延べ32人が参加しました。

1日目の土耕ではかん水管理について、2日目の養液では給液のEC設定やかん水回数について意見交換が行われました。農業改良普及課は、病虫害防除や今後の管理のポイントについて説明しました。

土耕と養液に分けて実施したことで、それぞれの栽培での地下部の管理について、じっくりと検討することが出来ました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、研究会活動の支援を行います。

「農業体験ツアー in あき」を開催 ～安芸市担い手支援協議会～



11月6日、安芸市担い手支援協議会が農業体験ツアーin安芸を開催しました。県内外から夫婦2組を含む計6人が参加し、安芸市の農業や就農支援の紹介、ピーマン農家のハウスや安芸市新規就農サポートハウスの現地視察、ナスの収穫体験、先輩農家や研修生との意見交換会を行いました。

農業改良普及課はツアーの企画・運営の支援を行いました。

参加者は、先輩農家や研修生からの「事前に情報収集をしっかり行い、自分の目指す農業を考えていくこと」「自己資金をしっかり準備すること」等のアドバイスを熱心に聞いていました。

農業改良普及課は、今後も関係機関や生産部会と連携し、産地の担い手確保を支援します。

下位側枝摘除をほ場で実演～穴内支部園芸部園芸研究会ナス部会現地検討会～



11月11日、穴内支部園芸部園芸研究会がナス生産者のほ場で現地検討会を開催し、生産者24人が参加しました。

農業改良普及課は、ナスの栽培管理の省力化を目的とした「下位側枝摘除技術」について、実際に下位側枝を摘除する作業を実演し、今後の作業負担が少なくなることや、前作で試験した結果では収量への影響は無かったことを説明しました。参加者からは、「収穫節数が少なくなるき収量は減るかなと思った」、「しゃがむとしんどいきこっちがえいね」という声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も新しい栽培技術の導入や、栽培技術の向上に向けて支援します。

11月の栽培状況は？ ～芸西村の促成ナス生産者を一斉巡回～



11月15～19日の間、JA芸西資材センターと農業改良普及課が3班に分かれ、芸西村の促成ナス生産者を対象に、計92戸を一斉巡回しました。

巡回では、各班が1日約10戸の生産者を訪問し、病虫害の発生状況、収量などについて尋ねました。生産者からは病虫害防除の薬剤や天窓の温度設定について質問があり、農業改良普及課は配布した「11月のナス栽培管理」の資料を用いて説明しました。

一斉巡回で得られた生産者の意見や病虫害などの課題は、今後の普及活動に反映して、更なる収量と品質の向上を目指します。